

## 鹿沼市議会経世会視察研修

### 視察概要

#### ① 岐阜県高山市

- (1) 視察日時 6月26日(月)
- (2) 視察場所 高山市役所
- (3) 視察内容 電子地域通貨「さるぼぼコイン」について
- (4) 対応者 高山市議会議員 議長 水門 義昭 様  
 高山市議会事務局 議事・調査係長 石原 直樹 様  
 高山市総務部 行政経営課 課長 林 秀和 様  
 高山市商工労働部 商工振興課 課長 二村 伸一 様

#### 【高山市の概要】

飛騨の中心都市である。市の東側には飛騨山脈、西側には両白山地がそびえ、中心市街地は険しい山に囲まれた高山盆地にある。平成の大合併の一環として2005年に近隣9町村と合併した際、面積2177.61平方キロメートルと、大阪府や香川県よりも大きく、東京都全体にもほぼ匹敵し、日本で最も広い市となった。また、国際会議観光都市に指定されており、伝統的な街並みのほか数多くのスキー場や温泉地を有している。

観光ガイドでは飛騨高山と記され、全国各地から毎年非常に多くの人々が観光に訪れる。仏ミシュランの実用旅行ガイド『ボワイヤジェ・プラティック・ジャポン』では必見の観光地として3ツ星を獲得している。

総人口 83,537人 世帯数 35,805世帯 令和5年4月現在

#### ② 電子地域通貨「さるぼぼコイン」について

##### 1.導入背景

飛騨地域に訪れる多くの観光客からの流入金を、地域外に流出させず、域内に留まらせる仕掛けがないことや、手数料が高い等の問題でクレジットカードを利用できる



※景観配慮版

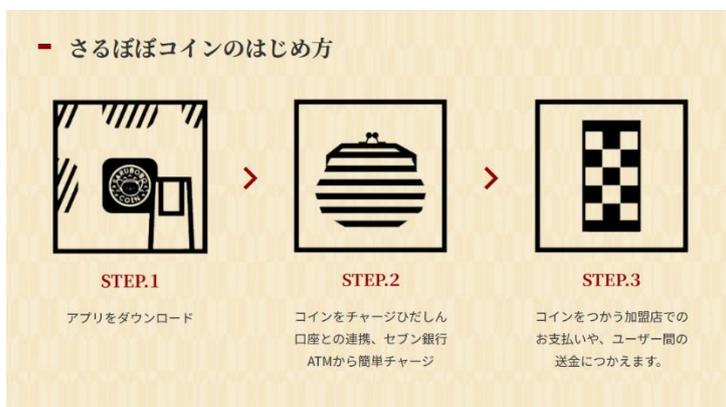
店舗が地域に少なく、訪日外国人によるインバウンド消費の機会損失が大きいことが当初の課題であり、課題解消のため飛騨信用組合が運営・提供する「さるぼぼコイン」が2017年（平成29年）に本格導入をした。その後、高山市は2019年（令和元年）に連携協定をする。公的決算や市民サービスの向上などを連携事項とした。

## 2.概要

高山市・飛騨市・白川村で使える電子通貨ポイント飛騨信用組合の預金口座を保有していれば、コインやポイントを送付・受取したり、円に払い戻したりできる「さるぼぼ Bank」が開設可能。加盟店にとって低負担。導入初期費用/月額利用料/決済手数料は0円で、払戻手数料が1.5%~1.8%、送金手数料が0.5%。決済に必要なのは組合が発行するQRコードのみとなっている。

## 3.サービスの全体像

最初に専用アプリをダウンロードして会員登録。次に、銀行口座や、街中に設置された端末からさるぼぼコインをチャージ。チャージの際に、1%の「さるぼぼポイント」が付与される。1ポイント1円相当として利用できる。(有効期限は基本1年間)



また、4つの特徴がある。



令和4年度から、プレミアム付き商品券で紙または、さるぼぼコインが選択できるシステムを導入する。またグリーンライフポイントとして、エコな取組みに対しさるぼぼコインを付与する事業も展開している。

#### 4.実績

現在、飛驒地域では約1,900店舗が加盟店、ユーザーは約29,000件となっている。さらに地域内の認知度・利便性向上を目的に「さるぼぼコイン教室」などを開催するなどの実績がある。また、プレミアム付き商品券は15.3%（10,588セット）がさるぼぼコインを選択された。

#### 5.質疑応答

Q.今後の展開について（子ども向けの対策や、ふるさと納税の活用など）

A.子ども向けの対策としては、まだ課題はあるが指定管理の施設（プールなど）で利用できないか検討している。ふるさと納税の活用は視野の中に入っていないが、今後担当部署と連携して検討していきたい。

Q.チャージ機は設置導入費について

A.飛驒信用金庫で全て費用は出ている。

Q.他の金融機関が同類の電子通貨を提案してきたらどうするのか

A.以前は相談があったが全国規模の電車通貨が出てきたので、企画自体がなくなってしまった。

Q.プレミアム付き商品券の電子通貨のメリットは

A. デジタルトランスフォーメーション（DX）の視点から即座に処理でき、確認もしなくて済むことが、市としては一番のメリットである。

Q.高齢者へのアプローチは

A.相談窓口を設置している。プレミアム付き商品券では、従来通り紙で受取りの選択ができるようにしている。

## 6.まとめ

市内の貨幣を循環させるためには市内の商店などの商品やサービスを購入してもらう必要があります。但し、現状では大手スーパーなどに勝てる状況にはない様に感じます。電子地域通貨の導入を機に自らが商品やサービスを考える機会となることにより、商店会の商品の価値が上がる可能性があると思います。

地方の一エリアに限定された取組ですが、地域の活性化をもたらす有意義な取組を視察研修でき、大変有意義であったことを申し添えし、報告と致します。



## 視察概要

### ① 石川県かほく市

視察日時 令和5年6月27日(火) PM2:00～

視察場所 あそびの森かほっくる(石川県かほく市)

視察内容 子供から大人までが楽しめる施設を考える。

対応者 あそびの森かほっくる館長 西田健一

#### 【かほく市の概要】

かほく市は、石川県のほぼ中央に位置し、県と金沢市の約20から25キロメートル圏内にあり、西は風光明媚な日本海を望み、北には宝達志水町、東は、津幡町に、南は内灘町に接している。

地勢については、東から西に向かい、産地、丘陵地、段丘地、沖積低地、海岸砂丘地で形成されており、北部では大海川が日本海に、南部では、宇ノ気川が河北潟に注いでいます。また、これらの地形と一体となった緑豊かな自然環境を有しています。

市の面積は、東西約9キロメートル、南北に最長12.9キロメートルで、64.44キロ平方メートルの面積を有しており、民有地の約49%が農地、23%が山林原野、約20%が宅地となっている。

人口は令和2年の国勢調査によると、総人口34,889人世帯数は12,528世帯であり、人口の推移を見ると、ほぼ横ばいとなっている。

#### 【あそびの森かほっくるのコンセプトと概要】

##### ● コンセプト

ここに来ると、あそびが見つかる。

ここにくると、友だちや仲間と出逢える。

ここにくると、知らなかった世界が学べる。

ここにくると、みんなが大きな輪(和)になれる。

森にさまざまな生き物が暮らすように、「遊びの森」では、さまざまな人たちがあそびや学びでつながります。

どんなあそびや学びをつくるか、あなたの自由な発想で可能性はひろがるとの説明を受けた。

##### ● 概要

2021年4月にOPENしたばかりの新しい屋内運動施設で、ロゴマークには、“かほっくるが光と風と音を感じられ、だれもが伸びやかに成長でくる

場所でありたい。”という想いが込められている。

屋内にももちろんのこと、屋外にも遊具や芝生広場が広がっているので、丸一日過ごせる家族も多いとのこと。かほっくるには、遊びに来た方のあそびと学びをサポートするスタッフが常駐し、Instagram でスタッフが紹介されている。

● 大人も子供もあそびながら育ちあえる場所

館内に入ってまず目に付くのは高さ10メートルの屋内立体ツリー遊具「ワールドツリー」を含む広い遊びスペース以外にも、テレビがある休憩スペースや貸し切り利用ができるミーティングルームや多目的スペースなどもありました。いろいろなイベントなどが開催され沢山の学びの場で時間の共有がされている。

● 施設

ワールドツリー	高さ10m屋内立体ツリー遊具非日常感のある遊びでチャレンジ精神を育みます。
ミーティングルーム・図書コーナー	本を読みながらひとやすみ。読書を通して知識の幅を広げます。
ツリーハウスアドベンチャー(屋外)	高さ7mのスライダーをはじめ、年齢に合わせた楽しみがあります。
チャレンジコーナー	あそびながら基礎的な体力づくりができる仕掛け。

【ワールドツリー】



## 【ツリーハウスアドベンチャー】



## 【まとめ】

あそびの森かほくは、かほく市の指定管理者に指名され年額3千万円でNPO法人クラブパレットが運営している。

今後、鹿沼市においても西部地域に子育て環境の充実を図るため、鹿沼らしい手法により子供から大人までが楽しみ、学べる大型遊具やミーティングルームなどを備えた大型の屋内型施設の設置を求めます。